健康コラム

Vol,49

お口の中にできる白い病変について

曽於郡歯科医師会　有村歯科医院　有村憲治氏

今回は、代表的なものについてあげてみました。

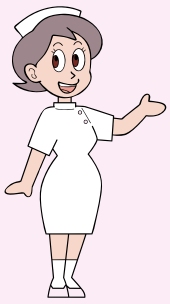
①白板症：白く板のように見える病変につけられた病名です。粘膜に白斑を生じる角化病変です。症例によっては、癌化することもあり前癌病変の一つとされています。

②口腔扁平苔癬：皮膚や粘膜に生じる炎症性の角化病変です。レース状・線状・白斑状・水泡状・萎縮型・びらん状などがあります。原因は不明ですが、免疫機構の関与、金属アレルギーの関与が考えられます。

③アフタ性口内炎：境界明瞭な円形あるいは、楕円形の有痛性の潰瘍です。よくいわれている口内炎のことです。

④口腔カンジダ症：口腔内に常在する真菌のカンジダによる感染症です。この菌は、健康な状態では、発症しませんが、体調不良や体力低下といった宿主の免疫低下や感染防御機能低下に伴い病原性を現し発症します。

まだ、他にもありますが、気になったら歯科医院を受診しましょう。



ジオパーク発掘調査隊

5市2町で掲載しています。

「火砕流」のおはなし

火砕流とは、火口から噴出した高温の溶岩や軽石、火山灰とガスの混合体が、高速で地表を流れ下る現象です。20年前の雲仙普賢岳の場合は、山頂付近に成長した溶岩ドームの崩落によって引き起こされました。今回の新燃岳の噴火でも火口周辺に火砕流の跡が確認されました。

一方、過去に加久藤カルデラ（宮崎県えびの市、鹿児島県湧水町）や姶良カルデラ（錦江湾奥）を形成したと言われる大規模な噴火では、勢いよく上昇した噴煙の柱が崩れドーナツ状に大規模な火砕流が発生したと考えられています。

入戸火砕流の想像図

錦江湾奥で今から約3万年前に起きた噴火では、南九州一帯を火砕流が襲い、軽石や火山灰がごく短い期間で分厚く積もり、「シラス台地」が形成されました。この火砕流は霧島市国分重久の地名から入戸（いと）火砕流と呼ばれています。

また、火砕流は自分の熱と重さで固まり、溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）になる場合があります。都城市の関之尾滝、曽於市の桐原の滝や三連轟、小林市の須木の滝や陰陽石などは今から34万年前に加久藤カルデラから噴出した火砕流による溶結凝灰岩でできています。

シラスの崖

上2点　「ふるさとの山霧島山」より